読書界　２０２２年度第２号

藤島高校図書館　2022.10.27

今日から「読書週間」（～１１／９）です。過ごしやすい気候のこの時期、普段にもましていろいろな本に親しんでください。図書館では「図書館ライブ」「読書会」「読書界発行」などの行事を計画しています。

まずは、今日から始まる昼休みの「図書館ライブ」の日程をお知らせします。

１０／２７（木）　ジャグリング部
１１／　１（火）　弦楽部
１１／　２（水）　合唱部
１１／　４（金）　演劇部
１１／　７（月）　吹奏楽部
１１／　８（火）　箏曲部
１１／　９（水）　吹奏楽部

各日 昼休み １２：３０～１２：４０ の開催です。１学期の「図書館ライブ」は毎回たくさんの生徒でにぎわいました。校内発表の場として、文化部のみなさんが熱演を見せてくれます。今回は、弦楽・合唱・箏曲部も出演。芸術の秋、読書の秋、図書館でのミニ文化祭を楽しんでください！

【アサドク感想投稿から　2021-2022】

これまでのアサドクについて「すずかけAGORA」に投稿された感想を紹介します。現在の2年生・1年生が投稿してくれたものです。

第１回「学ぶことの意味①　外山滋比古『思考の整理学』」の感想

○ 学校や国は密かに「何も考えずただついてきて欲しい。」「言うことを素直に聞いて欲しい。」とグライダー人間を求めている部分があると思うが、上の人の意見を何も考えずただついていくだけでは人間には考える脳があるのにもったいないし、騙されたり、自分にとって不利になったりしてしまうかもしれないから飛行機人間に自分からなることが必要だと思う。

○ (略) 今の日本の教育のやり方はおかしいと思う。なぜなら、意味のあることもあると思うが無意味と思われることも多くあるからだ。ある勉強は、その場限りのテストなどには役立っていても、その人自身、あるいは日本の将来につながり、役に立たなければ、全く意味を成さないと思う。将来に自力で翔んでいけるような人材を育てるためにも今の日本の教育を変えるべきだと思う。

○ 近頃、受動的な学習ではなく"能動的な学習"、勉強ではなく"学問"とそれぞれ後者が優れているかのような言葉を耳にする。現代文の授業でも『知の体力』という文章を読み、受験のためではなく自分が困難に陥った時に自分で考える力を蓄える学習が大切だと学んだ。非常に納得ができ、将来は今以上に自分で考える力が大切になっていくとも思う。しかし、受験のためでない学習とは一体何なのか。どうしたら自分で考える力を養うことができるのか。そもそもそれは学校でできることなのか。いろいろな人が今の学生の普通の学習に提言、意見、ケチをつけるが、具体的な対策を私は見たことがない。受験や試験が現在の形になり、それがずっと続いているのは『先人』たちがそれが社会に出たあとに役に立ち、生かせるものだと考えたからではないのだろうか。学ぶって何だろう？

第2回「学ぶことの意味②　内田樹『キャンパスとメンター』」の感想

○ 今まで、「好きなことを追い求めることが一番楽しい」という感じの思想があったので、「1つのことだけに偏った人間になるな」には頭（心？）動かされました。

○ 大学のイメージが新たに追加されたような気がしました。「学び」は、周りのメンターたちがもう始めているゲームに巻き込まれて、少しずつ自分の役割や自分そのものを知っていくことだという考えを読んで驚きました。私も「枠組み」にとらわれずにいつでもアンテナの受信感度は最大にしておけたらと思いました。

○ まず、なるほどな、と思った。新型コロナウイルスの影響で、「大学生がオンライン授業ばかりだ」といったニュースがよく報じられていた時期があったが、自分はあまり深刻に受け取っていなかった。学歴社会の中、単位が取れて卒業できればいいじゃないか、なんて考えていたところもあった。けれど、この文章を読んで、キャンパスライフの中での、何気ない出会いの意味に納得した。あまり大学の面白さなんて考えたことがなかったが、これをきっかけに、自分の興味・関心を惹く大学は、面白そうな大学はどこか、なんて考えてみるのもいいなと思った。大学というものの価値を見出せた気がする。

第3回「学ぶことの意味③　俵万智」の感想

○ テストで良い点数を取ることだけが学習ではないと思う。

○ 俵万智さんの頃から、藤島高校の校風は今とは変わっておらず、自由で穏やかで、素晴らしい校風なのだなあと感じました。

○ 昔の話を聞いていると、今はかなり生きづらい世の中になっているように感じた。昔は長屋があって、生徒の自由度が高かったが、今はそんなことは一切ないような感じがする。ただ、昔は自由度が高かった分、自分が負う分の責任も重かったと思うので、今の、大人に責任を負ってもらう代わりに自由を差し出すのとどちらがいいかは人によるかなと思った。

○ 私もよく無駄のような話をするが、それには教養につながるような話もあるし、考えを深められるようなものもあるので、ただ一概に無駄とは言えないと思った。すべての時間は無駄だと思わなければ無駄ではないのだと思った。

○ 俵万智さんの事は、もちろん「サラダ記念日」等で前から知っていましたが、まさかこんなに身近な人だとは思っていませんでした。先生方もよく「この高校には変人が多い」と言っていましたが、それはどうやら昔から変わらないようです。俵万智さんの感性はこの高校で育てられたのか、と思うと少し誇らしくなります。演劇は人の情感を育てるとよく聞きます。少しだけ演劇部に興味がわきました。

○ 劇団アポロが今と、変わっているところも変わっていないところもあって、よんでいてたのしかったです。また、『無駄』についても述べられていました。たまに、この『無駄』を感じる時はありますが、絶対に楽しい、と感じてしまうこれは、息が詰まらないためにあるんだろうな、必要な無駄があってたすかったな、と思う時があるので、とても共感する内容でした。

第6回「人間とは何か①　山極寿一『「サル化」する人間社会』」の感想

○ 私は、たしかに序列のある社会は苦手です。が、家族だから、とそこで誰かと壁をつくるのはつらいな、とも思います。「あそこはああいう家庭なんだからしょうがない」とか、「よそはよそ、うちはうち」のような考え方です。なんか、家族別に序列が作られている感覚がします。精神論にはなりますが、一人ひとりが極端に優劣をつけあわない社会になって欲しいです。

第7回「人間とは何か②　高校「倫理」　ソクラテス・モンテーニュ」の感想

○ 私も自分がなんでも知っているとは思っていないけれど、知的好奇心が無知の知から生まれるのであれば、私は知的好奇心をあまり持っていないのでどこか奢っているところがあるのかもしれないなと思いました。自分を少しだけ見つめ直すことができました。